



H 21年4月30日

さくしん

下水鉋小学校

(校長室だより12)

校長 大内 徹

初夏を思わせるような暑い日が続いていたかと思うと、朝夕は冬を思わせるような寒さが戻ってきたりして不順な天気が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

下水鉋小学校は、今年度139名の新入生を迎えて、また6年生の学級編制により新たに「博」組が加わり、全校児童705名で平成21年度のスタートを切りました。昨年度比で、児童数が45名増加しております。新1年生は、あと2名の不足で、5学級基準に達せず、とりあえず4学級で発足しました。今後の児童数が増えていくようであれば、来年度の学級編制もあり得ますので、新一年生の保護者の皆様にはご承知おき下さるようお願い申し上げます。

さて、入学式、始業式では、本校の児童として大切にしてほしいこととして、

- ①だれに対しても明るく元気に挨拶をしてほしい
- ②だれに対しても優しい思いやりの心を持って接してほしい
- ③先生の言うことやお話を最後までしっかり聞いて、守ってほしい。

以上の3点について話しました。これらのことはごく当たり前のことでありますが、なかなか常にはできないことであります。明るく楽しく居心地のよい学級の中で、良好な人間関係を築き、小学生としての生活面や学習面の基礎を身につけていく上で必要なことであります。大人になっても求められる、社会人として必要な態度や資質かと思えます。

先日、朝校内を廻っていますと、一年生が私の「おはようございます」にだいぶ反応してくれるようになってきたことに気づきました。中には、膝に両手を添えて、お辞儀をしながら、可愛らしい声で「おはようございます」と挨拶をしてくれる一年生のお子さんがいて、大変感心致しました。朝急いでいるような状況では、「おはよう」もおろか、「・・・はよう・・・」とか「・・・ございます」なんていうくらいな端折ったぞんざいな挨拶で通り過ぎていく大人すらいる今日この頃、手を膝に添えてお辞儀する挨拶を一体どなたが教えて下さっているのかなと思いました。一年生の子ども達です。きっと日頃お家の方々がそうされているのを見ていて、挨拶はそうするものだと思ってやっているのだらうと思いました。周囲の大人の言動や所作振る舞いは子どもにとっての大切な環境であり、私たちは子どもの成長にとって本当によい環境、見本になっているか謙虚に振り返り、自らを正していかなければならぬと思いました。

さて、28日の遠足では、私は八幡原公園まで一年生と一緒にに行ってきました。広田の公園で一休みしました。ブランコや吊り輪などの遊具があり子ども達は楽しそうに遊んでいました。吊り輪に手の届かない子どもを持ち上げ、二つの輪を両手でつかませてやり、前後に体全体をブラブラと揺すってやると、大変喜んでおりました。それがおもしろそうに見えたらしく、あとから続々と順番待ちの子ども達の列ができてしまいました。八幡原公園に着く前から一汗かいて私は疲れてしまいましたが、

可愛い一年生とふれあう絶好の場となりました。ごく単純な遊びなのですが、外に出て子ども達と時間を過ごすことはとても気持ちいいことでもあり、また大切なことだなあと改めて思いました。八幡原公園でのお昼の時間、どの学級も輪になっておいしそうにお家の方がつくって下さったお弁当を食べていました。私がそばにあったベンチに腰掛けて弁当を食べていると、「校長先生もおいでよ」と声をかけてくれた女の子がいました。一人で食べていて可哀想に思えたのでしょうか。よく気づく子どもだなあと思いました。学級の中でも寂しそうにしている友達がいた時に、このように気づいてみんなの輪の中に入れるように声をかけてくれるといいなあと願いました。

先日は本年度最初の参観日がございました。PTA総会もあり、大勢の保護者の皆様においでいただきました。ありがとうございました。総会の折に私からもお話させていただきましたが、当日参加されなかった方にもご理解、ご協力いただきたく、その話の内容を一部ここに再掲させていただきます。

前略 学校に遅れそうな状況が皆さんのお子さんに生じたらどうされますか。「遅れて行かせるのは可愛そうだから」といって親が安易に車で送っていくというのはどうなのでしょう。当の本人は、遅れてしまう自分自身を省みることなく、車で送ってもらうことを当たり前に思ってしまうかもしれません。我が身を振り返ってもそうでありましたが、子ども自身が「困ったな」「このままではまずいな」と思わせ、その原因を自分自身のあり方に求めさせていかないと、真の育ちは生まれてこないのではないのでしょうか。雨や雪がふった場合も同じであります。本校は集団登下校であります。学区外通学のお子さんの場合や何か特別な事情がある場合はやむを得ないわけではありますが、雨や雪の中、可愛そうだからといって、ほとんどの子が歩いて登下校している中を、車でさーっと連れてきたり、連れ帰るのはいかなるものでしょうか。ここには「子どもを育てる」という視点が欠けているように思えるのです。歩いての登下校は決して無駄な時間ではありません。歩きながら、学校であったできごとを振り返ったり、友達と語ったりする貴重な時間です。また、登下校も含め、子ども達は日々、友達どうし、互いの関わりの中で育っています。ぜひとも、子ども達が互いの関わり合いの中で成長していくその過程を大切にしていきたいところです。

今は、子どもが学校に遅れそうな状況や雪雨の日の対応を例にあげましたが、親として、その時は「かわいそうだな」と思う余り、つい、大人の発想や感覚、また大人のペースや手段で便宜的、効率的にものを考え、対応や処理をしてしまうことが他にもあるかもしれません。

学校から帰ってきた我が子の様子がいつもと違って変だなとお感じになられたりすることもあるでしょう。そのような時、どうされますか。我が家の子ども達にもありました。子どもの様子をみながら、さり気なく、最近の学校での様子や友達との関わりについて聞いてみるのもいいでしょう。たいがいの場合、子ども同士、あるいは学級の話し合いや担任の先生方の指導で困った状況を乗り越えていけるものと思っています。生きている限り、何かやろうとしたり、人間がかかわっていく中では問題はつきものです。問題がないことをよしとするのではなく、問題を通してより子どもは育っていくのだという発想で、問題を避けることなく、問題を解決していく力をつけていくことができればと願っております。最後になりますが、学区外通学で登下校の送り迎えをされている方については結構ありますが、特別な事情があってお子さんを送り迎えする場合には学校にお知らせ下さい。また、ロータリー近くまで車で入ってくることはお控えくださいますようお願い申し上げます。不審者による車での侵入もないとは言いきれませんし、校地内、特にロータリー周辺での子どもの安全確保の面からもご協力をお願いします。

